



平成 18 年 9 月 13 日

各 位

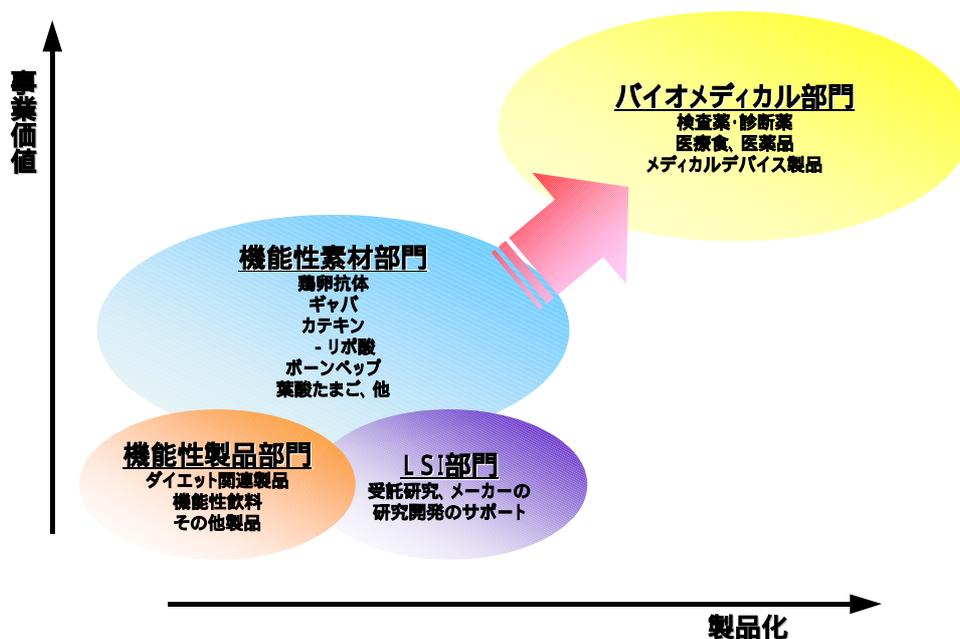
会社名 株式会社ファーマフーズ  
代表者 代表取締役社長 金 武祐  
(コード番号:2929 東証マザーズ)  
問合せ先 常務取締役総務部部长  
上野 竹生  
(電話番号:075-693-8607)

## 中期経営計画に関するお知らせ

株式会社ファーマフーズでは、今回新たに、平成 18 年 8 月から平成 21 年 7 月末までの中期経営計画を策定しました。

当社は、これまで研究開発型のバイオベンチャーとしてバイオの先端技術を駆使し、基盤収益となる機能性素材部門、機能性製品部門及びLSI(Life Science Information)部門、次世代の製品開発を目指すバイオメディカル部門の 4 つの事業分野において、事業展開を推進してまいりました。

### 【当社事業マップ】



当社では、平成18年6月の東証マザーズへの株式上場を契機として、より一層の積極的な事業展開をすすめ、新たな発展を目指す機会が到来していると考えています。

株式上場後の今後3年間で当社の“第2次創生”ととらえ、「やさしいバイオ」を実現するための本格的活動を開始いたします。

## “第2次創生” ファーマフーズの新たな挑戦です。

### 1、海外営業展開の本格始動と国内営業の拡大

営業人員の増強や平成16年8月の東京事務所の開設など、国内営業体制の増強に注力したことが功を奏し、平成15年7月期以降、3期連続して売上が増加しております。また、営業の海外展開につきましては、当社創業当初より海外のマーケットを捉えた展開を推進し、韓国・台湾等での営業基盤を確立し、当社創業期の収益に貢献してきましたが、ここ数年は1億円前後の売上に留まっております。

当社では“第2次創生”を契機として、海外での一層の営業展開を図ることを営業面の最重要課題として、平成17年よりその準備を進めてまいりました。

海外営業展開の本格始動と国内営業の拡大により、更なる成長を目指します。

#### (1)海外営業展開の本格始動

##### 新たな市場の開拓

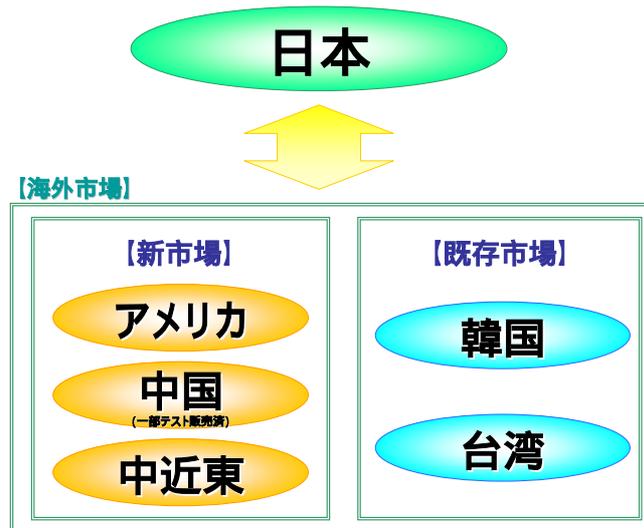
台湾に引続いて、中国本土での営業展開を図ります。既に、乳業メーカー・飲料メーカーを中心に営業を開始し、鶏卵抗体を使用したヨーグルトのテスト販売も一部で開始されており、平成19年春からの本格的な営業実績を目指しています。

次に、三菱商事株式会社の協力によりアメリカでのビジネス始動を目論んでいます。既にカナダではサプリメント用途として取り引きが始まっており、また、平成17年からはアメリカ・アナハイム等で実施されている展示会に出展する等マーケット展開を開始し、当期の下期からの事業立ち上げを行ないます。

他に中近東のサウジアラビア、エジプトについても機能性製品の発売に向けた準備をすすめており、平成20年7月期中の販売開始を見込んでおります。

##### 既存市場での深耕

韓国市場は当社の創業期における主要なマーケットでありましたが、ここ数年売上は横ばいの状況が継続しております。韓国市場の一層の深耕のため、前期(平成18年7月期)より韓国国内の営業人員を確保し、早期での売上伸張を図ります。



## (2) 国内営業の拡大

国内営業体制の確立により国内の営業実績も拡大基調にあります。今後も、一層の営業網の拡充と新製品の発売等による増収を見込んでおり、基盤収益を支える主要なマーケットとなっております。現在、大手乳業・飲料メーカー、食品メーカー等に対して新たな営業展開を進めており、当3ヵ年におきましても新規採用等により売上拡大を図ります。

## 2、次世代製品開発の本格展開と機能性素材部門の開発事業の推進

当社では、研究開発型のバイオベンチャーとして、現在、対売上高比20%程度の研究開発費を投じて機能性食品素材の開発を中心に研究開発事業を推進しております。

今般、当社の予てよりの懸案事項でありました研究設備の拡充について、ロートリサーチビルディング内に平成18年5月に京阪奈研究所(京都府木津町)を開設し、バイオメディカ部門の開発拠点といたしました。また、平成18年9月には新本社研究所(京都市西京区)をオープンさせました。これら2研究所の設置により、機能性食品分野とバイオメディカル分野の2極の研究開発事業の進展を図ります。



**新本社研究所**  
平成18年9月オープン

また、組織面では研究開発事業の進展のため、平成 18 年 7 月末現在 30 名の研究員を、平成 20 年 7 月には 60 名体制とし、より競争力のある製品の開発と研究開発のスピードアップを目指します。

次に、外部協力機関として、事業化に向けて企業等とのアライアンスを図る一方で、国内・海外の大学等との関係強化を図ることで研究開発事業の進展を図っております。現在まで、国内では京都大学、広島大学、京都府立大学、静岡県立大学等、海外では延世大学、仁済大学(ともに韓国)、成功大学(台湾)等との共同研究を実施し、各開発製品の実用化を果たしております。今後も、一層、外部協力機関との提携関係の強化をすすめ、研究開発事業の進展を図ります。

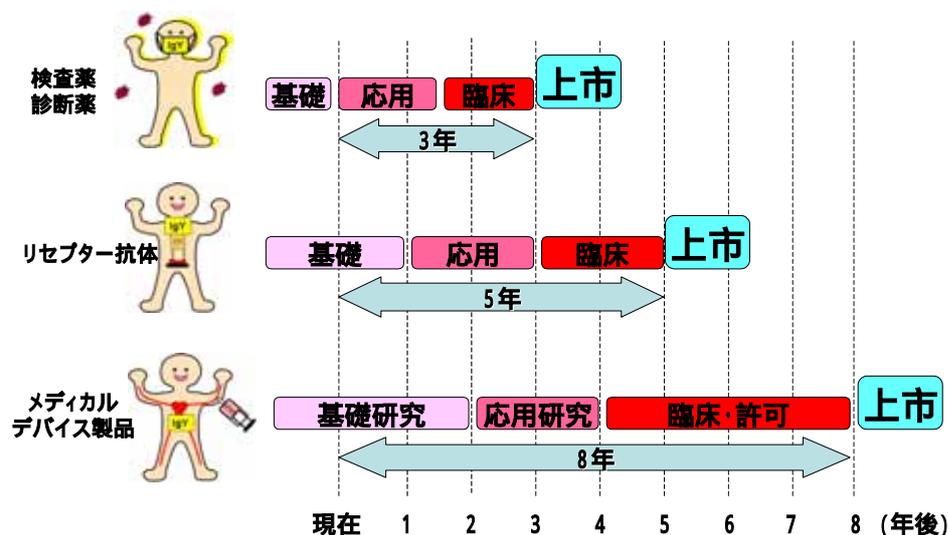
【研究開発投資】

単位:百万円

第 8 期(実績) (平成 17 年 7 月期)	第 9 期(実績) (平成 18 年 7 月期)	第 10 期 (平成 19 年 7 月期)	第 11 期 (平成 20 年 7 月期)	第 12 期 (平成 21 年 7 月期)
150	222	303	391	447

(1) 次世代製品開発の本格展開

平成 16 年にバイオメディカル部門を創設し、次世代製品の開発を開始しております。検査薬・診断薬分野、医療食分野、メディカルデバイス製品・医薬品分野の3分野に分類し、次世代製品の製品化を目指しております。



また、外部協力企業として平成 17 年 9 月にロート製薬株式会社(本社:大阪市生野区)と業務提携・資本提携を締結し、次世代製品の開発に向けた共同での取組みを開始しております。加えて、外部の研究機関として京都大学農学部・薬学部等と共同研究を進めております。

## (2)機能性素材部門の新規商品の開発

当社の現在の基盤収益事業として位置づけています機能性素材部門についても、継続して研究開発事業を推進します。既存製品の鶏卵抗体、ギャバ、カテキン等については新たな機能性の発見等のアプリケーション開発を進行します。また、新規製品としてポーンペップ、ランペップ、葉酸たまごの事業展開を図ります。各製品とも開発はほぼ完了し、既に営業展開を開始、一部でテスト発売も始まっており、当期中での本格的な事業化を目指します。

## 3、業績目標

### 第12期(平成21年7月期)業績目標

- ・売上高27億円
- ・経常利益5億円

当3ヵ年における当社の業績目標については、海外営業展開の本格始動と国内営業の拡大により営業全般での堅調な推移が予想され、毎期対前期比20%以上の売上増加を見込んでおります。

一方、収益面では売上増加による売上総利益増加に対して、平成18年5月開設の京阪奈研究所、平成18年9月開設予定の新本社・新研究所及びそれに付帯する設備と研究機器の購入による減価償却費の増加や研究部門を中心とした人員増加による販売費及び一般管理費の増加により、平成19年7月期は売上高17億円、経常利益1.9億円を見込んでおりますが、それ以降は各期、順次収益面は改善し、平成21年7月期には売上高27億円、経常利益5億円を業績目標としております。

### 【単独業績目標】

単位:百万円

	第9期(実績) (平成18年7月期)	第10期 (平成19年7月期)	第11期 (平成20年7月期)	第12期 (平成21年7月期)
売上高	1,200	1,720	2,270	2,770
営業利益	173	150	340	467
経常利益	184	193	385	512
研究開発費	222	303	391	447

### **当資料取り扱い上の注意点**

当資料には、株式会社ファーマフーズの業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予測に関する記述および資料は、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来的予測と異なる結果になることがある点を認識した上で、ご利用ください。